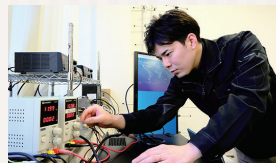
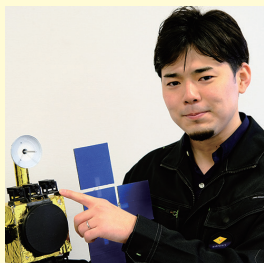


つくばで輝く研究者

NAGATA Akihiro 永田 晃大 さん
株式会社ワープスペース 取締役CTO

兵庫県神戸市出身。2017年筑波大学工学システム学類卒、筑波大学大学院博士後期課程 JAXA杉田研究室在籍(休学中)。16年12月から株式会社ワープスペース 取締役CTOとして「低軌道衛星を対象とした地上局インフラの提供」と「キューブサット用モジュールの発売」の2軸で事業展開をしている。



ワープスペースの人工衛星「WARP-01」を運用するための地上管制設備を設定中

「地球外生命体の発見」
人生の目標は「地球外生命体の発見。天文好きだった父親と宇宙の話や天体観測に動いながら幼少期を過ごし、高校時代に観たNASAの火星探査機キュリオシティが火星に降り立ったニュースは「本気で地球外生命体を発見しよう」としていることに衝撃を受けたと同時に、自分の人生の目標が決まった出来事でした」と話す。同時に流行したコミック「宇宙兄弟」の影響もあり、筑波大学に進学。入学後は学部問わず参加できる超小型

宇宙空間の通信インフラ構築で地球外生命体の発見を

衛星プロジェクトに参画し、筑波大衛星2号機「TFJ-2」の打ち上げではプロジェクトリーダーとして人工衛星開発を牽引。16年末に宇宙ステーション補給機「こうのとり」で国際宇宙ステーションに運ばれた「TFJ-2」は17年から日本実験棟「きぼう」から宇宙へ放出され、約2年間で20カ国、2千件以上の受信報告を得て19年1月に運用を終えた。

「人工衛星と地上間の通信インフラ構築」
プロジェクトを通して、宇宙開発の課題も見えてきた。「特に通信インフラが課題と感じました。人工衛星と地上との通信頻度の少なさと通信速度の遅さ、この2点を解消することが必要不可欠。解消に向けて次のステップに踏み出しました」。当時人工衛星プロジェクトの責任者だった亀田敏弘准教授(筑波大学システム情報系)から声がかかり、筑波大学発のベンチャー「ワープスペース」の立ち上げから参加。現在はCTO(最高技術責任者)として技術全般の総括を行うと共に、設計などの実務も

こなす。「現在は人工衛星による地球観測機会の約9割が通信ホストルネットに割って機会損失している状態。宇宙通信インフラを構築することは、宇宙空間での経済活動を活性化すること。それにより、自分の目標である地球外生命体の発見に大きく貢献できると信じ、やりがいを感じています」

つくばの暮らし

妻と2人暮らし。自宅からロケットが見える風景が気に入っていると、つくば暮らしは、美しい街並みを走るランニングや、最近始めたゴルフも楽しみのひとつ。美味しい飲食店が多いのも魅力と話し、特にラーメンの食べ歩きは休日の楽しみ。妻と記す「つくばの美味し。飲食店リスト」には、続々と新しいお店が追加されている。



趣味の旅籠巡りの幕。コロナが落ち着いたら再開予定